

共同獣医学部 学術セミナー

# マダニ媒介性感染症に関する 分子疫学的研究

馬場健司先生

(臨床獣医学講座 寄生虫病学研究室)

2013年2月5日(火)

17:00-18:00

連合獣医学研究棟 4F 大講義室

マダニは多種多様な病原体を多種多様な動物に伝播する特徴を有しており、人獣共通感染症のベクターとして重要である。しかし、本邦においては、医学および獣医学領域のどちらにおいてもマダニ媒介性感染症の認知度は決して高いとは言えない。例えば、リケッチアが病原体である日本紅斑熱の患者数が年々増加しているが、これは本疾患が近年になってようやく認知されてきたことも大きな要因と考えられる。実際、どのようなマダニ媒介性感染症がどれだけ存在するのかについては不明な点が多く、病原体、保菌動物、ベクターに関する疫学的データの蓄積が望まれている。特にマダニの寄生が多い野生動物は保菌動物として重要であり、未知の病原体が潜んでいる可能性も少なくない。

本セミナーでは、外来種を含む野生動物におけるマダニ媒介性病原体の保有状況および分子系統解析に関する新たな知見を示し、今後の研究展望についても紹介したい。

世話人： 佐藤 宏 (5902)